

# 東京金山会通信 No.5

問い合わせ

東京金山会 広報担当（藤山善夫）  
☎080-5525-0435  
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

7月13日、第61回東京金山会総会の反省会を行いました。久しぶりに会った皆さんから「どのようにしたらもっと楽しめるか」を基本に、プログラムの見直しや新しい会員様への呼び掛け方など多くの素晴らしい意見が出されました。来年は今年以上に盛り上がる東京金山会になるように、役員一同頑張りますのでご参加をお待ちしています。反省会後は暑気払いで身体に溜まった熱気を取り除きました。

また、今年の最上地域ふるさと連合会は7月7日～8日の2日間、51名で舟形町を親訪訪問しました。舟形名産の鮎の塩焼きをご馳走になったほか、縄文の女神像やマッシュルーム生産所を見学させて頂きました。

東京金山会通信は皆様方のご協力でNo.5となりました。金山町と東京金山会の橋渡しになれるようにこれからも継続していきますので、ご意見など頂けたら幸いです。よろしくお願いします。



④総会反省会後の暑気払いの様子。来年はさらに盛り上がるよう意見が出されました／⑤最上地域ふるさと連合会で訪れた舟形町で見学した西ノ前遺跡の国宝縄文の女神像。他にも町内各地を見学しました

## 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぱすと内

No.165



『山の図書館』  
〔肥田美代子／作〕  
〔小泉るみ子／絵〕

ある日のこと、おばあさんが畑から帰って来ると押入れにしまっておいた古い箱が座敷に出されてありました。中には、昔おばあさんが子どもたちによんであげていた本がいっぱいつまっています。久しぶりに声に出して読んでみました。ガサガサ。後ろに何かの気配が。「だれかがわたしのこえをきいていたのかしら。」その夜。一人の静かな男の子がおばあさんのもとへやってきました。おばあさんは本を読んであげました。毎晩毎晩こんな遅い時間に。帰っていく男の子についていった先にはほら穴が……。そおとのぞきこんでみると……！

『ある晴れた夏の朝』  
（小手鞠るい／偕成社）  
ぼくたちにとって「原爆」とはなんだったのか？——出自のちがうアメリカの高校生が、広島と長崎に落とされた原爆の是非について語り合う。日系アメリカ人のメイは、否定派の一人として演壇に立つことになった。アメリカ在住の著者が若い世代に問いかける。「戦争」の歴史と記憶。



『百花』  
（川村元氣／文芸春秋）  
大晦日、実家に帰ると母がいなかった。息子の泉は、夜の公園でブランコに乗った母・百合子を見つける。それは母が息子を忘れていく始まりの日だった。母の記憶が失われていくなかで、泉は一度、母を失ったことを思い出す。現代において、失われていくものの、残り続けるものとは何か。



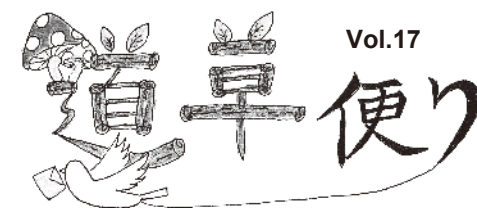
※（ ）内作者名

超超超超むずかしすぎるまちがいさがし（松澤里恵子他）  
／まんがでわかる発達心理学（渡辺弥生監修）／ともだちに話したくなる恐怖の百物語（いしいいくよ）／ページをめくってゾッとする1分で読める怖い話（麻生かづこ）／希望の糸（東野圭吾）／ほどなく、お別れです（長月天音）

／外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？（内藤正典）  
／おべんとうの時間(4)（阿部了・阿部直美）／マチのお気楽料理教室（秋川滝美）／ノーサイド・ゲーム（池井戸潤）  
／さよならの儀式（宮部みゆき） そのほか7冊

／今月は18冊！／

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」  
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介！  
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します



闇夜に煌々と照らされ山車制作に勤しむ姿は、とてもクールに映った

8月6日、夜8時。十日町の山車づくりにお邪魔しました！  
今回、楽しげにお話ししてくださったのは副頭の柿崎さん。山車は見たことはあるものの、なかなか作る途中は見られないもの。得意分野に分かれて、紙を貼ったり、釘を打ったり、大きな作業から細かい作業まで「せっかく作るのであれば手を抜かない」気持ちで丁寧に作られています。

それら文化。十日町地区では、山車男がぞろぞろと集まり手を止めずに作業している姿や制作途中の迫力ある山車を、スポ少帰りの親子やおじいちゃんを引き連れてやってきた小さな子どもたちが足を止めて見ていました。  
こういった姿は、私たち大学生にとっては当たり前ではないし、とても素敵なことに思えました。山車づくりで集まる人々とそれを見守る地区の子どもなど、十日町には祭をきっかけに生まれた様々な「コミュニティ文化」が代々受け継がれていました。

十日町地区「山車コミュニティ」

夕暮のどくだみの花人恋し  
紅花を土産に唄ふボランティア  
阿部 サタエ  
老鷺の声満ち亘る草木堂  
夏蝶の翅の眩しき神の庭  
鵜沼 よし子  
夕暮の池を震はす墓の聲  
高橋 洋子  
山は夏青々として山は夏  
紅花で染めしハンカチ胸に秘め  
岸 あき子  
娘の身命祈る社の花しようぶ  
先生の先生も居て夏講座  
星川 きえ子

### 金山杉俳句会報 第四三二回



### かねやま紅風会

下駄履けば想ひは軽ろし夏の宵  
名も知らぬ花も咲きをる魂迎へ  
荒屋 阿部 勝子  
参院選投票所立会人に参加  
国政へ参加うれしき夏ひと日  
溜池や見飽きぬ程の蓮の花  
菅 越 庄司 けみ子  
手花火や子等のお客は大人たち  
冷房のスーパーゆったり別世界  
七日町 青柳 キエ子  
立葵腰の曲がりを笑ふかに  
夏蝶や対でジグザグ絡み合ひ  
七日町 柴田 栖静  
人類の勝者えらびか星月夜  
しばらくは月に供へず夏料理  
実を結ぶ雌花は遠し南瓜かな  
ドンチャンで梅雨時すこすバスの中  
上 台 阿部 一步  
積みきれぬ懺悔に揺らぐ流灯会  
逞しき孫ひき連れて盆の墓  
七日町 村松 奈風  
街角の市場賑ぎはし盆仕度  
中元は地産の品や微笑まし